

令和5年3月1日

卒業式（式辞）

これまで、コロナに負けずに、ともに頑張ってきた仲間と、支えてくれた先生方に感謝する気持ちやそれぞれの思いのこもった、体育館中に響き渡る、呼名に応える「ハイっ」でした。

在校生が参加できなかったことが非常に残念でありました。

式辞

日に日に日差しが明るさを増し、新しい春の訪れが感じられる今日の佳き日に、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、ここに茨城県立藤代高等学校第四十八回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより我々教職員一同にとりまして大きな慶びとするところであり、心から感謝申し上げます。

まず、保護者の皆さま、お子様のご卒業、本当におめでとうございます。入学式の日には皆さまからお預かりした大切なお子様たちは、高校

生活を経て心身とも大きく成長し、晴れて今日のこの日を迎えました。
どのような時にも深い愛情を持ち、これまでお子様を育まれてこられましたことにあらためて敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。

加えてこの間、本校の教育活動に多大なご支援、ご協力を賜りましたこと、本校教職員を代表して、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。私どもとしましては、立派に成長した卒業生を送り出せることに、今、大きな喜びを感じております。

また、式典につきましては、参加人数を制限しての開催となることに、ご理解いただけますようお願い申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました卒業生のみなさん、改めて、ご卒業おめでとうございます。

思い返せば、みなさんは新型コロナウイルスの感染拡大で不安が広がる中で本校を受験し、入学式直後から全国的に休校措置がとられたた

め、クラスメイトの顔さえ分からない中で、不思議な高校生活がスタートしました

まだ、オンラインも通常につながらない中での課題学習、課題提出など学校も工夫が求められました。

その後も感染拡大地域としての指定を受けての対応に追われる中、5月下旬からの分散登校、そして6月中旬からやっと始まった通常登校。

しかし多くの行事が中止や縮小を求められるなど、コロナという見えない敵との戦いが始まりました。

そのような中、みなさんは1年生ではオンラインで球技会を応援したり、2年生では時期を延期して感染対策をした上で修学旅行を実施したり、3年生では学年単独での文化祭企画を創り上げ成功させるなど、先生方と協力しながら、明るく、そしてたくましく乗り越えてきました。

予測不可能な問題に多く直面し、答えのない問いの連続のなか、そ

れまで答えを探すことに慣れていたみなさんが、答えを創り出し始めました。

そして多くの仲間とともに、これまでに誰も経験していない高校3年間を乗り越え、藤代高校の歴史に新たな1ページを加えてくれました。

コロナの対応も 藤代高校の歴史も「あせらず 休まず あきらめず」着実に 一歩 一歩 歩みを進めてきた結果です。

みなさんの学校生活では、学習や部活動など、他者と比べることが多くありました。いい意味での競争がみなさんの活動の源になったことと思います。

他者と比較することで自分の大きさを感じたり、「あいつより早く」、と比べながら目標を設定したりしてきたと思います。

これからは 一人ひとりが違う目標に向かい それぞれが オンリーワンの存在として 自分の頑張りに自分で「ブラボー」を出しながら、自分の背中を自分で押してあげながら、一歩一歩 歩み続けてく

ださい。

今年度50周年を迎えた藤代高校は、新たな次の50年に向けて既に歩みはじめています。

みなさんも、明るく、楽しく、元気に、そして他者を受け入れ仲良く
コロナ禍のなか笑顔で学校生活を楽しんだたように
それぞれの未来を創り上げてください。

教職員を代表し、みなさんが、人生の原点の一つは、この藤代高校
での学びにあったと思ってくれることを信じるとともに、みなさんの
前途に輝かしい未来が開けることを心から祈り、式辞といたします。

（当日の式辞より）



校長室前廊下側窓を「祝 卒業」バージョンにしました。